

村上市DX本部会議

2024年4月26日

株式会社コパイロット 米山知宏



令和6年度 当初予算

主要事業説明書



村上市
観光キャラクター
「サケリン」

「スマートむらかみ」の実現

目指すべき姿

- ✓ 誰もがメリットを享受できるデジタル化
- ✓ 市民の利便性・快適性向上
- ✓ 安心・安全な暮らしの実現

取組の考え方

- 生産性の向上
- 職員の働き方改革
- 行政サービスの抜本的見直し
- 前例主義からの脱却
- ICTの積極的活用
- 地域デジタル化の推進

10年後、20年後、30年後の村上がどうあってほしいですか？

10年後、20年後、30年後の市役所は、
まちの中でどのような役割を担えるとよいでしょうか？

10年後、20年後、30年後の職員さんには、
どのような働き方をしてもらいたいですか？

スマートむらかみを具体化した全体像（米山私案）

実現したい
状態

住民・地域

- 笑顔あふれる暖かな関係
- しなやかで力強い地域

住民と行政の関係

- 村上の素晴らしさを未来に繋ぎ、共にまちを作っていくパートナー

行政経営

- 持続可能な経営状態に

取り組む
こと

利用者の立場に立ったサービス提供

- 利用者起点でサービスをデザイン
- あらゆる人がデジタル化の恩恵を享受できるサービス
・ 環境整備

職員の立場に立った職場環境デザイン

- 業務のやり方・仕事の進め方・コミュニケーションのあり方を職員視点でデザイン
- 一度改善して終わりではなく、「改善し続ける」

村上市役所
が大切にし
たいこと

市役所全員で、組織をアップデートし続ける —働きやすい環境・組織文化は、自分たち自身で作る—

- 市民に対してより良いサービスを提供するためには、職員のかや思いが発揮されやすい環境づくりが不可欠
- 立場に関係なく、多様な意見の尊重（活発な議論をしやすい環境）
- 暗黙の前提となっている慣習や価値観を問い直す
- 自ら体験・経験することを大切に
- 経験を通じて、みんなで学び続ける&経験・知見をみんなで共有する

コミュニケーションの変革

③DX推進員の役割

令和6年度

DX推進員にやってほしいこと

①課・室で情報を共有しよう(マスト)

- ・DX本部会議資料、研修資料、デジタル技術、他自治体の先進事例等を共有し意識と知識の底上げを図ろう
- ・合言葉は「TTP(てっぺい てきに パくる)」

②課・室で業務改善を進めよう(マスト)

- ・普段の仕事の「?」「もやもや」「こうなったらいいな」などを話し合ってみよう

AI議事録やAI-OCR、RPAを使ってみよう

- ・まわりを巻き込みながらペーパーレスを進めよう

③DX推進員による情報交換をしよう

- ・1か月に1回15分程度、DX推進員どうしでコミュニケーションしよう(オンライン活用、ペーパーレスを意識)

・ラフな感じでOK!立ち話でもOK!まずはそれぞれの「妄想」を声に出してみる!

④セキュリティ対策を徹底しよう

情報セキュリティポリシーを理解し周知実践しよう



DX推進員による情報交換をしよう!

(オンライン活用、ペーパーレスを意識)

(1)DX推進員が複数いる課は、1ケ月に1回MTGを行う。

(2)DX推進員が1人の課、支所等は次のとおり1ケ月に1回MTGを行う。

- ①本庁
 - ・地域経済振興課、観光課でMTG
 - ・会計課、税務課でMTG
 - ・議会事務局、監査委員事務局、選管事務局でMTG
 - ・生涯学習課、村上教育事務所でMTG
- ②荒川
 - ・地域振興課、産業建設課、教育事務所でMTG
- ③神林
 - ・上下水道課、農業委員会事務局、地域振興課、産業建設課、

教育事務所でMTG

④朝日

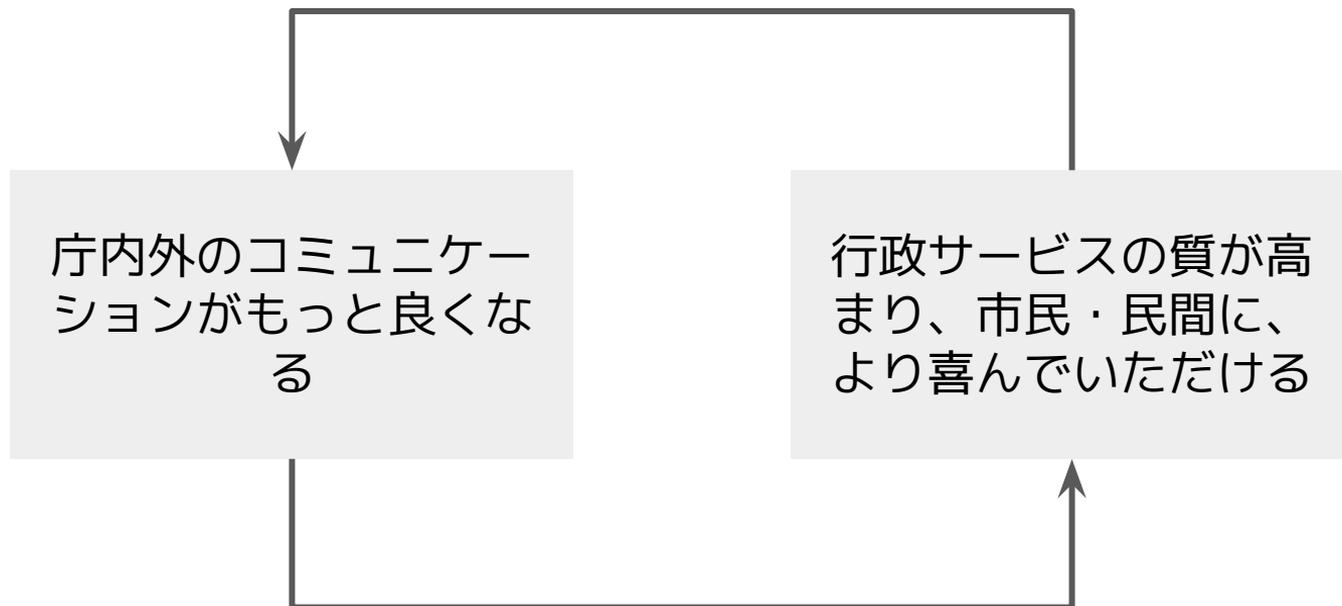
- ・学校教育課、地域振興課、産業建設課、教育事務所でMTG

⑤山北

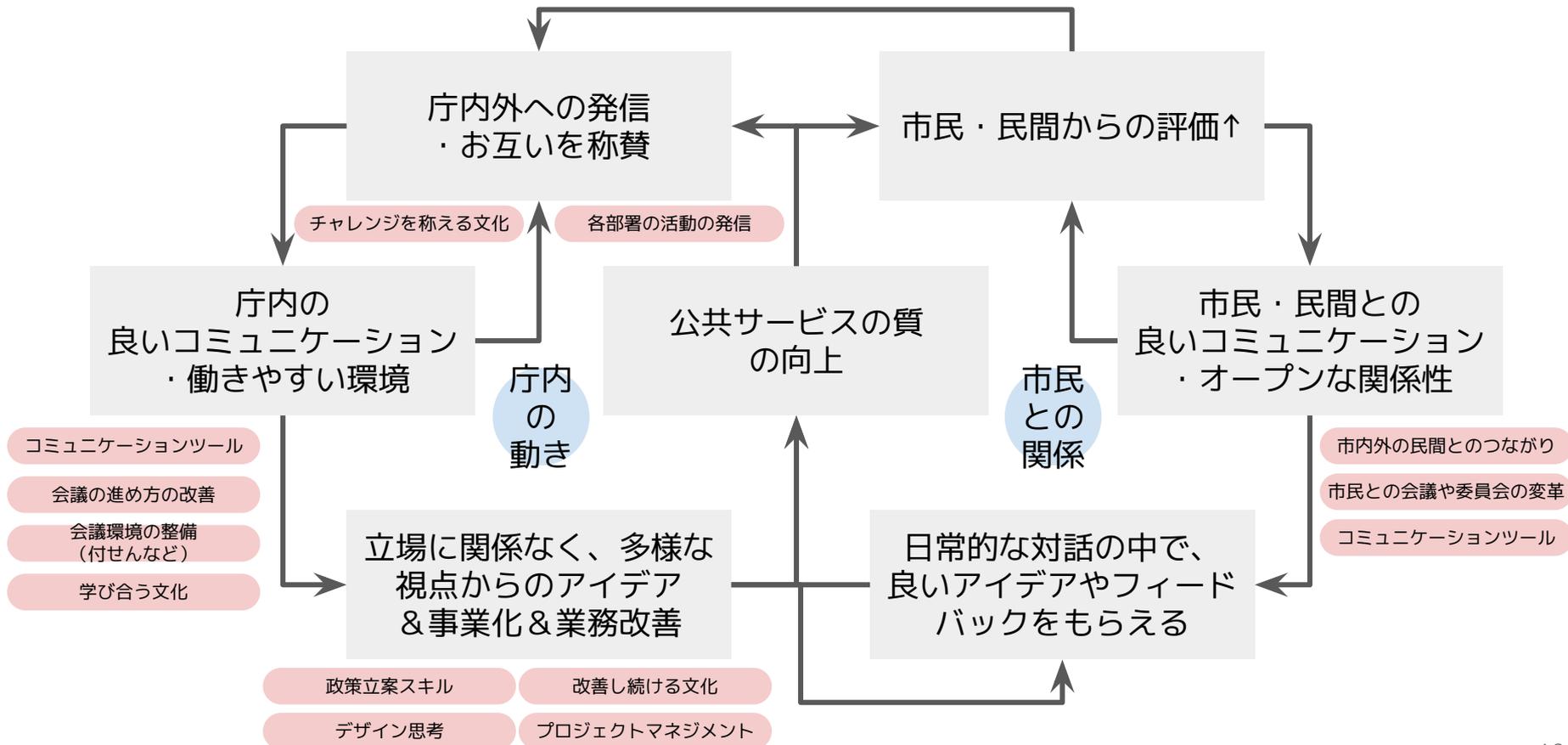
- ・地域振興課、産業建設課、教育事務所でMTG

なぜ、
コミュニケーションの変革が
必要なのか？

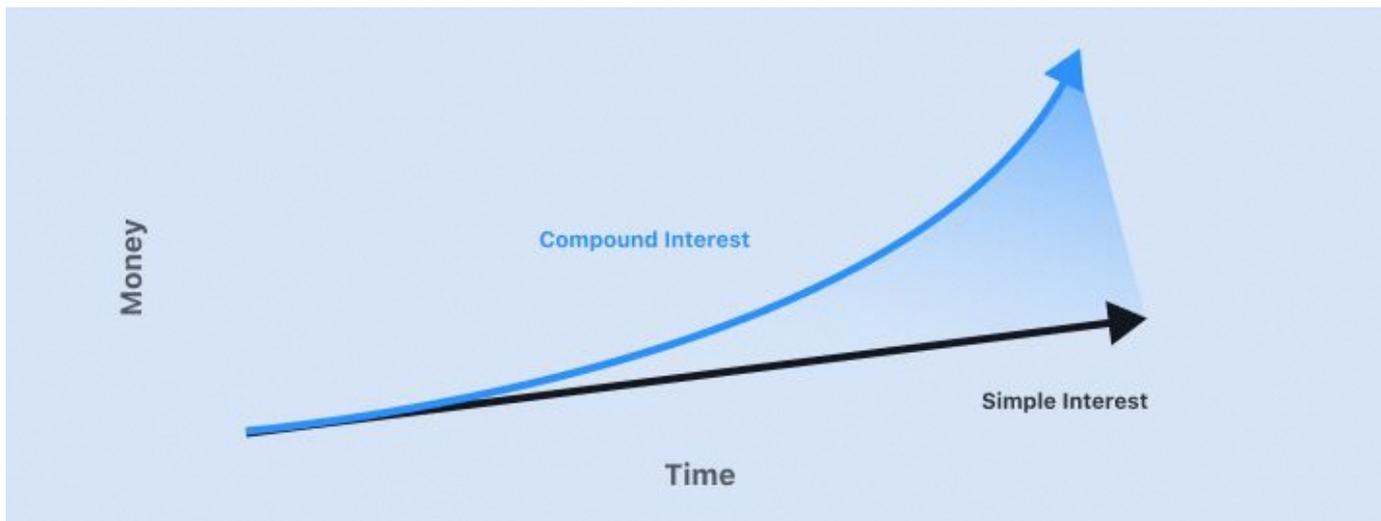
コミュニケーションの変革がDXにおいて重要な理由



変革していくための構造



コミュニケーションの質の向上は
投資の「複利」的に効いてくる



出典：<https://www.bitcoin.com/get-started/what-is-apy/>

市民とのコミュニケーション、行政内のコミュニケーションを共に変革

市民とのコミュニケーション

- 実現したい状態
 - 市民との関係性の変革
 - 市民はサービスを受け取るだけの存在ではなく、村上を作っていくパートナー
 - デジタルツールにより、それが実現しやすい環境になっている
- 委員会
 - Zoomでも参加ができ、Miroで意見が言えるような場になったならば、若い世代も参加したいと思える（&村上市が変革している様子をすぐに実感）

行政内のコミュニケーション

- 実現したい状態
 - 仕事の議論の質を高められている状態
 - 誰もが意見をいいやすい状態
- チャットツールの導入
 - 必要なコミュニケーションが行えるように、使い方を継続的にアップデートできているか？
- 会議の変革
 - ディスカッションや対話の文化が作れているか？
 - そのためにも、付せんやデジタルツールが活用できているか？